

日本地球電気磁気学会会報 (第 101 号)

1983年12月23日

日本地球電気磁気学会
〒113 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル
(財)日本学会事務センター内
電話 03-815-1903

I 第74回総会ならびに講演会

第74回総会ならびに講演会は10月25日～27日の3日間、名古屋大学空電研究所のお世話で、豊川市勤労福祉会館で開催された。26日午後には恩藤会員を座長として名古屋大学空電研究所柿沼隆清会員による特別講演『惑星間空間シンチレーションによる太陽風の観測』が行われた後、広岡会員を議長として、下記の次第で総会が開かれた(会員総数536, 定足数179, 出席者数101, 委任状数96で成立)。

- (1) 開会の辞
- (2) 議長選出
- (3) 大会委員長あいさつ(岩井章大会委員長)
- (4) 運営委員会報告(飯島運営委員, II項参照)
- (5) 田中館賞授与

第91号 田中義人会員

低緯度磁気圏におけるVLF電波伝搬の研究

第92号 早川正士会員

磁気圏VLF/ELF放射の研究

- (6) 田中館賞審査報告(IV項参照)
- (7) 長谷川記念杯贈呈
上山 弘会員
平尾邦雄会員
- (8) 会長あいさつ(小口会長)
- (9) 議事
(イ) 名誉会員の推薦

小口会長より、金原淳会員（1970年6月長谷川記念杯贈呈）ならびに太田征次郎会員（1970年11月長谷川記念杯贈呈）を名誉会員として推薦したい旨の提案があり、満場一致で承認された。

(F) 次期総会・講演会開催地の確認

総会で提案されたとおり、第75回総会および講演会は、東京大学理学部地球物理研究施設のお世話で、1984年5月中の3日間開催することが確認された。（日程は5月8日（火）～10日（木）と確定しました。）

(G) 次々期総会・講演会開催地の提案

丸橋会員より、第76回総会および講演会を東北大学理学部をお願いしたい旨の提案があり、東北大学理学部を代表して上山会員より引受ける旨の発言があった。

(10) 謝辞

大林会員より参加者を代表して、今回の総会および講演会をお世話下さった名古屋大学空電研究所の方々に謝辞が述べられた。

II 運営委員会報告

7月6日（第125回）と10月24日（第126回）に運営委員会が開かれた。

(1) 庶務関係

従来は総会欠席時の委任状を学会会場で収集していたが、今回（第74回）から講演申込み用紙の先頭に総会欠席票と委任状をつけ、講演申込み時に提出する方式に改めた。次期総会・講演会でもこの方式を用いますので、会員の皆様の御協力をお願いします。

(2) 名簿作成状況

アンケート未回収は約60件あるが継続して回収に努める。海外会員約50名についても個別に調査中である。1984年1月末には各会員に配布できるよう努力している。

(3) JGG出版状況

1983年度分の刊行は出来るだけ定期的に行われるよう努力している。

III 新入会員

第124回および第125回運営委員会で承認された新入会員は下記の通りである。（*印は学生会員，**印は賛助会員）

九鬼孝夫（電通大）*

近藤洋一（信州大）*

柴田 隆（九州大）*

中川一郎（東大）*

日立製作所（戸塚工場宇宙部）**

IV 田中館賞審査報告

第91号 著者 田中義人会員

論文名 低緯度磁気圏におけるVLF電波伝搬の研究

従来、磁気圏低緯度域、特に $L < 1.7$ のあたりではVLF波は主として非ダクト伝搬を行うものと考えられてきた。著者は、母子里、佐久島、鹿児島におけるホイッスラの地上観測、および、FR-1衛星資料の解析、並びにレイ・トレーシングなどによって、日本やインドなど低緯度地域で受信されるホイッスラ空電は、電離層の赤道異常域に存在するPLモードの非ダクト伝搬が主たる原因ではなく、もっぱら赤道異常域に重畳して存在する小さなスケールのダクトに捕捉された伝搬によるものであることを明らかにした。このようなダクト伝搬、更に電離層透過後の伝搬および波源分布の考察によって、低緯度地域でのホイッスラ空電の伝搬機構が統合的に理解されるに至った点が評価され、受賞が決定した。

第92号 著者 早川正士会員

論文名 磁気圏VLF/ELF放射の研究

本論文はVLF波動の衛星観測及び地上観測資料に基づいて、磁気圏中緯度VLF放射の発生、伝搬機構を明らかにしたものである。特に、衛星資料に於て一般にELFヒスは、複数の波の重畳によるものであることを明らかにし、成分波に分離すると、主たる波は磁力線に対して概して大きな角度で発生していることを示した。また、コーラス電波に対する同様な測定では、電子サイクロトロン周波数の上と下とで性質が異なり、上側は共鳴角近傍で励起された静電的ホイッスラ波、下側は比較的磁場に沿った横波のホイッスラ波であることを明らかにし、それぞれが、低エネルギー電子の静電不安定、高エネルギー電子のサイクロトロン不安定と、別々の機構で励起されていることを示した。これらの業績が評価を受け、受賞が決定した。

V IAGA事務局からのお知らせ

International Association of Geomagnetism and Aeronomy の第18回総会は1983年8月15-27日にHamburg で開催されました。今回はIUGG総会でもありましたので、IAGA独自の研究課題を扱うセッション以外に、地球物理学の他の分野とも関係があるテーマについてのinterdisciplinary symposiaが多く開催されました。そのうちIAGAが主導的立場で計画したシンポジウムのテーマは、Data Management, Scientific Discoveries from MAGSAT Investigations, および Interim Results from the Middle Atmosphere Programであり、またIAGAが後援したテーマとしては、Lithospheric Deformations と Geophysics of the Polar Regions でした。またIAGA独自の研究発表会には約780編の論文が世界各国から提出されました。日本からIUGGに出席した人達のうち、IAGA登録者は19名でした。

今回の IAGA 総会では役員交代も行われ、会長には D. I. Gough (カナダ)、事務局長には M. Gadsden (英) が就任し、また各 IAGA 内部組織の指導者達も多く交代し、当学会員の方々に重要な任務を果される立場になられました方々も何人が居ります。新しい IAGA 内部組織などは新事務局長から発送される次号 IAGA News に掲載されます。これまで IAGA News を受け取っておられた方々には来年 1 月 (あるいは船便でくるため入手は 2 月になるかも知れません) に IAGA News #22 (December 1983) が返信用葉書 (住所変更および今後の配布希望有無問合わせ) と共に届くと思いますが、葉書返送を怠りますと、今後の送付リストから外されますことを予めご注意ください。

次回 IAGA (第 5 回学術総会) は 1985 年 8 月 5 - 17 日にチェコスロバキア国プラハ市で開催されます。この会への出席を考慮しておられる方々は Dr. V. Bucha, Geophysical Institute of Czechoslovakia, Acad. Sci., Boční II, 141 31 Praha 4, Czechoslovakia 宛に今後のサーキュラー配布を希望する旨を申し出ておいて下さい。

なお、これまで私が IAGA 事務局を運営していた 8 年間 (1975 年 9 月 - 1983 年 8 月) に学会員各位から寄せられた激励あるいはご支持に対して、ここに厚く御礼申し上げます。

東京大学理学部地球物理研究施設

福 島 直

VI 国際地球観測百年記念事業に関する報告

1982-83 は、第 1 回国際極年実施後 100 年、第 2 回国際極年後 50 年、国際地球観測年から 25 年ということで世界各国で記念行事が実施されました。本学会では 1982 年春季学会を国立極地研究所で開催した折に記念展示会・記念講演会を開きました。また日本学術会議主催で、1983 年 3 月 15 日に同所講堂で記念式典・記念講演会を、またロビーで記念展示会を開催しました。その日が選ばれた理由は、日本における地磁気毎時観測が東京赤坂今井町 42 (当時は工部省用地、現在は米国大使館職員宿舎用地) で開始されてから、ちょうど 100 年目にあたるからです。この国際地球観測百年記念式典当日には記念メダルが発行され、第 2 回国際極年観測功労者には金メダルを、国際地球観測年功労者には銀メダルを贈呈しました。この記念メダルは下記の「国際地球観測百年記念事業会」を通じて頒布を受けることができます。

頒価	金メダル	単価	2,500円	}	金・銀・ブロンズ製メダル 1 組お求めの場合 は 6,000 円 (但し特別なケースはつきません)
	銀メダル	単価	2,000円		
	ブロンズメダル	単価	1,800円		

(プラスチックケース入り)

申込先：〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部地球物理研究施設内

国際地球観測百年記念事業会

振替 東京4-93644

(銀行送金の場合は第一勧業銀行本郷支店 口座番号 075-1165897 をご利用下さい。)

送金受取後1カ月以内に現品を郵送いたします。なお1984年3月15日をもってメダル注文を締切ります、とのことです。

また国際地球観測百年記念事業の一つとして、東京大学出版会が「地球観測百年」と題する教養書(四六版 329頁 定価2,000円)を12月に発刊しました。寄稿者(敬称略)は下記の通りです。

第Ⅰ部 地球観測百年のあゆみ

執筆者：福島 直，内田英治・新田 尚，河村 諒，小口 高，羽倉幸雄，守山史生，和田雅美，坪川家恒・角田忠一・細山謙之輔，岩淵義郎，友田好文，宇津徳治，大林辰蔵，永田 武。

第Ⅱ部 国際地球観測の思い出

執筆者：和達清夫，北岡龍海，畠山久尚，今道周一，太田征次郎，加藤愛雄，難波捷吾，前田憲一，古畑正秋，宮地政司，日高孝次，熊谷直一。

付録： 第1回国際極年1882-83 F.W.G. ベイカー

以上報告いたしますとともに、国際地球観測百年記念諸行事に本学会会員諸氏に多大のご協力をいただきましたことに対し、お礼申し上げます。

東京大学理学部地球物理研究施設

福島 直